

大津市防災研修会 参加報告

比叡平一丁目自主防災会会長 笈田 昭

平成 22 年 1 月 28 日（木）午後 1 時 30 分から 4 時 30 分まで、大津市役所別館大会議室で開催された標記研修会に参加した。

以下にその内容を記すが、主たるものは、加古川グリーンシティ防災会会長の^{おおにししょうすけ}大西賞典氏による講演であった。

内容：

1. 13：30－13：35： 開会挨拶 佐藤 賢 大津市副市長
2. 13：35－15：30： 講演「楽しく防災をやるコツー生活防災カー」

加古川グリーンシティ防災会会長 大西賞典

講師紹介：1962 年生れ、1984 年大阪工業大学卒、1998 年より前記防災会会長、2007 年より総務省消防庁地域安心安全ステーション伝道師。生業は仏壇屋。阪神・淡路大震災後に「マンションの災害対策」に取り組み、「楽しく防災活動をやろう」をテーマに活動。「グリーンネット」等の情報提供システムを構築、「防災井戸」設置で話題になる。NHK、民放、新聞各紙で活動が紹介されている。「防災功労者内閣総理大臣表彰」など受賞多数。加古川グリーンシティ防災会のホームページの URL は、<http://www.greencity.gr.jp/>です。



写真 1. 講演する大西賞典氏

1) 「生活防災」：防災のための工夫を普段の生活の中に組み込んでしまう。京都大学防災研究所 矢守克也教授提唱、「防災人間科学」「生活防災のすすめ」。

- ・ 「町内チャンピオンシップ」の登録：災害時に自分が提供できる能力・サービスを登録しておく。普段本人がやっていることを登録する（運転、子どもの世話、インターネット操作など）。
- ・ 日々の生活の中に組み入れる：ちょっと余分に買っておく、など。
- ・ チームで行う、繰り返し行う。

- ・ 整理・整頓、コミュニケーションが大事（あいさつ運動、子どもたちを巻き込む）。
 - 2) 「生活防災情報システム」：防災放送、掲示板、コミュニティ新聞、回覧板、ポスター、インターネット、自治会の活性化、世代間交流、あいさつ運動など。
 - 3) 「減災訓練」が必要：事後处理的防災訓練ではなく、普段から生活の中で行う。地域コミュニケーションの確立（あいさつ運動、小さな親切運動、夏祭りなど）、独自の防災マップ（生き抜く上での道しるべ）、町内チャンピオンマップ、あんしんカード・REC (Relief Card)、命のライセンス、帰宅支援サポーター、など。
 - ・ DIG（災害図上訓練）：必ず、机の上で地震を起こすことが大切。対象を婦人会、子ども会と変える。
 - ・ 楽しくやろう防災会議「1000円出しの会」
 - ・ イカ焼き機で炊き出し訓練
 - 4) 防災用無線機、緊急放送設備、防災資機材、AED、防災井戸、など
 - 5) トイレ問題の解決が重要
 - 6) 防災を継続するコツ：防災だけに特化せず、何かに防災をプラスすること。皆で一緒に継続して少しずつでも「育む」こと。コツコツやるのがコツ。みんなで知恵を出し合い、楽しみながら防災活動しよう。
3. 15：40－16：00： 住宅用火災警報器の設置推進について 消防局予防課 八軒幸史
リチウム電池式：10年間作動。寝室・階段は義務設置（煙感知式）、台所は任意（煙または熱感知式、煙感知式の方がよい）。



写真2. 消防局予防課八軒幸史氏

4. 16：00－16：20：質問に対する回答

質問：災害時の安否確認方法は？

回答：地域のコミュニティ力を高めておくこと。個人情報保護法は関係ない、登録方式をとるのが良い。

質問：費用はどうしているか？

回答：マンションなのでやりやすい。管理組合の中に自治会、防災会があるが、災害時

は防災会が上に立ち、自治会は下になる。管理組合から 50 万円、県の共済補助が 50 万円ある。コカコーラが AED を協賛補助している。

質問：自治会員の減少に対する対策は？

回答：強制加入にしている。防災会に入らなかったら守らないと言えばよい。

質問：地域作りに対するアドバイスを。

回答：話し合いが必要である。自分の命・財産は自分で守るという意識で行う。



写真 3. 会場風景

5. 16:20-16:30: 閉会の挨拶 消防部長 原田敏和



写真 4. 火災警報器設置推進ポスター



写真5. 他学区自主防災会活動状況展示

以上